

●炭焼き窯開き 17 日に予定が雨天のために 24 日（土）に延期

17 日はかなりの雨が未明から降り続き炭の窯出しには最適な天候ではありませんでした。それで出席予定の皆さんが相談して延期としましたが、こういった天候も十分考えて炭焼き窯場に屋根を作り、雨天でも作業ができるようにしてありました。なぜなら炭焼き体験を開始したころ、毎年雨天に見舞われ延期となって次回炭焼を予定されている方に迷惑がかかることがしばしばありました。それで雨天でも予定した日に作業ができるようにと手作りで屋根を作ることにしたのです。その後木炭の使用は燃料改革が進み需要が無くなり、懐かしい取組になってしまいました。

●京都府山城地方振興局からの指摘箇所の加筆訂正の上再提出 書類完成本日（22 日）提出予定

高額な予算で 7 事業を組み合わせると楽しいイベントを展開してきました。そして年度末には収支決算と成果物の提出が求められます。木津川での魚とりやカヌー体験の実施や中聖牛の木材などをこの予算で実行できました。そして何よりも木津川に生育する植物の写真を 600 頁ほどにまとめ上げ出版できることになりました。これまでこのような貴重な資料をまとめ上げることができたのはこの助成金制度の恩恵であります。今年取組みで木津川の植物に関してこれで一応出来上がりということになりました。木津川の生育植物の写真集はかなり重要で貴重資料であります。ご希望があれば一冊の対価を御負担いただければお譲りできると思いますので、事務所までご連絡下さい。これだけのものはなかなか手にできないものです。

●2021 年度京都大学との共同作業について竹門先生との打ち合わせ実施 7 人出席

木津川右岸 15 km 地点に 2020 年度は中聖牛第 4 群 3 基を作り上げました。今年 2021 年は 20 km 地点に中聖牛 5 基を設置する計画が伝統的河川工法を用いた木津川の河床地形管理手法に関する研究承認され、それについて以下の説明がされました。木津川 20 km 地点に中聖牛 5 基を設置することでした。そして秋に全国から関係者が現地を視察に来られるからそれへの対応をしてほしいとのことでありました。昨年 27 本の竹蛇籠の製作に 2 ヶ月以上かかりました。今年は約倍近くの 45 本の竹蛇籠を製作しなければならない計画になります。想像を超えた取組み規模になるので相当気合が必要と思います。同時に真竹の調達も約 2 倍近くなりますのでこれは大変な量になってきます。そのうえ、全国から学会の視察者がおいでになるという計画もびっくりするようなものです。それで会員の皆さんにもどうかこの大規模な取り組みにもぜひ大きな応援をお願い申し上げます。よろしく頼みます。

●レンリソウ生育現場で堤防補強工事着工 まさに水際で工事ストップ

19 日の朝、播川さんに大釜さんからメールが届きました。木津川のレンリソウの生育地において堤防の工事が開始されるようです。とのことでした。何も聞いていないのと、とるものも取らず現場に行くと、工事用の矢板がずっしりとレンリソウが芽を出しているところへ運びこんでいました。現場で会った木津川出張所長にいかに大切な植物であるかを説明し、当日から開始する予定の工事を、まさに水際でストップすることができました。レンリソウは近畿地方で唯一、今の場所にしか生育していないと故村田先生がおっしゃっていたもので、京都府が「絶滅の恐れのある植物」に指定されている非常に大切な植物であります。里山の会は生育地保存の為に、除草や抜草作業に汗を流しているものでその保存に努めています。皆さん保存ができて胸を撫で下したところでした。今までは工事予定場所を事前に伝えられ、現場を確認してきたのですが今年からは調査保全管理業

務から工事箇所についての打ち合わせ事項が取り消されていました。誰よりも詳しく知っているものを外して工事をするという国交省のやり方に抗議を申し入れておきます。

●光田先生絶滅危惧種のフナバラソウ種から栽培に成功

木津川でフナバラソウが発見された時、天橋立にあったフナバラソウが盗掘にあって残らずなくなりましたとの情報を知りました。木津川にわずか3株が生育していることがわかっていたので、極秘にして保存をしてきました。そして光田先生によって増殖できないか研究をお願いしてきました。花の形態からうまく受粉が出来なくて、研究に研究を重ねてくださいました。今年までに成果が実り20株が大きく育ちました。ここまで大きくなれば移植も可能と判断して、里山の会に移植先の相談がありました。日の当たるところで乾燥している場所が適地と判断して移していただきました。元気に育ってくれることを祈っています。うまく土着してくれたら皆さんにご紹介させていただきたいと思っています。

●竹蛇籠への工夫 シリーズ7回

まず用意した竹をうまく割らなければなりませんから教えていただいた器具を作り竹の根元(前部)に印をつけ「なたで割り口」をつけて即席の竹割り機に差し込み、後のところを持ち上げて8mの竹を勢いをつけて走り抜けて4分割に割ります。280本を割り続けることは高齢者では、とてもきつく大変な作業でした。同志社大学の学生さんの応援があつて、材料資材が準備できたのです。次に割った竹の節とりになります。4分割に割りますと少なく見ても1000本に別れました。それぞれの竹には節が20カ所あります。その節をハンマーでたたき落とさなければなりません。一節1打撃の技術で1000本の節は2万回になります。これも道具は手ハンマーや少し重たいハンマーを使って行う作業でした。毎日毎日続く大変な作業でした。節を取るだけでは竹が曲げられないのでひびを入れなければなりませんでした。だから相当重い大ハンマーを振り上げ振り下ろしになります。こうして材料が用意できました。これからいよいよ6本の竹を組み合わせるのです。